

2024 年度上野千鶴子基金助成金最終報告書（HP 掲載用）

1. 助成対象事業	女性学・ジェンダー研究の発展に資する調査、研究、出版
2. 事業の区分	Seeds プロジェクト
3. 氏名/団体名	金豆（JIN DOU）
4. 事業名	清末における中国人留日女子学生である孫清如の研究——その人間関係及び教科書編纂による女子教育観の形成を中心に
5. 助成額	
6. 事業実施期間	2024 年 9 月 1 日～2025 年 8 月 31 日
7. リンク	https://researchmap.jp/jindou_genderstudies

8. 事業の目的

中国の清朝末期、1906 年末から 1907 年末まで日本に留学し、東京の成女学校の清国（即ち中国）留学生部速成師範科に入学した中国人女子留学生の孫清如は、日本で学んだ内容をまとめて十冊の『女子師範講義』シリーズを極めて短期間で編訳し、1908 年 3 月に出版した。このシリーズは発行から一年後に清朝学部（日本文部省相当）の教科書審査を通過し、高く評価されている。また、彼女は雲南省の元巡撫の張凱嵩の娘であり、夫の孫光庭は雲南省の留日学生の監督であった。現在、孫清如およびその編訳した十冊の『女子師範講義』シリーズに関する先行研究は極めて乏しく、数えるほどの研究においても『女子師範講義』の第一冊「修身学」および第二冊「教育学・教育史」の内容分析に限られている。本助成事業の目的は、従来の先行研究では手つかずであった残り八冊を収集し、分析を展開することにある。これら十冊が短期間のうちに刊行された背景には、孫清如が渡日以前に有していた家庭的背景、在日期间における日本人教員による女子教育の影響、政治的立場が異なる在日中国人からの協力、さらに清朝政府による女子留学に対する姿勢や、当時の国情に即した女子教育政策の展開が密接に関わっている。本事業は、これらの観点から検討を加えることで、中国女子留学史および女子教育史における空白の一部を補うことを目指すものである。

9. 実施内容

①2024 年 9 月 21 日：北京にて首都師範大学主催「第六回中国近現代社会文化史国際学術シンポジウム」に参加し、「清末中国留日女学生對於新的性別秩序的探索——以対《中国新女界雜誌》第六号的分析為中心」をテーマとする発表を行い、中国の研究者と交流し、孫清如に関する情報を収集した。②2024 年 9 月 22 日～25 日：北京での学会発表をきっかけとして、首都図書館にて資料調査を実施した。同館所蔵の『女子師範講義』第二冊「教育学・教育史」および第四冊「学校管理法」を閲覧し、第二冊については一部内容を筆写し、今後の分析の基礎資料とした。③2025 年 3 月 12 日：首都図書館に連絡して申請し、第四冊「学校管理法」の全文スキャンデータを入手した。④2025 年 3 月 19 日～3 月 21 日：天津図書館にて現地に閲覧を実施した。同館に所蔵されていた『女子師範講義』シリーズの九冊を閲覧・収集し、第九冊「生理学・植物学」（散逸中）を除く九冊を確保した。これにより、従来の先行研究で入手困難であった資料的空白をほぼ補完することができた。⑤2025 年 4 月 7 日：東京にて成女学校の写真取材を行った。また、国立国会図書館を訪れ、成女学校の校史を閲覧した。

10. 事業の成果と自己評価

本研究では、1907年に東京で刊行された『中国新女界雑誌』の寄稿者の一人である孫清如を主な対象とし、彼女が1908年に編訳した十冊の『女子師範講義』を中心に分析を進めてきた。孫清如は清末の女子留学生として、在日中国人ネットワークの中で重要な役割を担い、その活動は清政府の女子教育政策とも密接に関わっていた。本事業の実施以前には、資料不足のため、当初は孫清如の夫である孫光庭に関する資料を求めて雲南省への調査を計画していた。しかし研究活動の進展に伴い、孫清如に直接関わる『女子師範講義』シリーズの原文を入手することができたため、孫光庭に関する研究については今後の課題として位置づけることとした。本助成事業の進展により、従来研究では十分に扱われてこなかった以下の成果を得ることができた。第一に、『女子師範講義』の出版は、孫清如個人ではなく、清政府官僚・立憲派・革命派など立場の異なる多くの在日中国人の協力によって成立したことを確認した。第二に、先行研究で一冊のみとされていた清朝学部教科書審査通過について、実際には六冊が清朝学部採用されていたことを新たに明らかにした。第三に、『女子師範講義』は成女学校速成師範科の講義を基盤とし、日本の女子教育方針、とりわけ「広義の良妻賢母主義」が中国女子留学生教育に反映されていた点を確認した。これらの知見は、清末のジェンダー史・女子教育史に新たな視角をもたらすものである。

これらの成果は、2024年12月の「東アジア次世代フォーラム in Kyoto」、2025年7月の中国人留学生史研究会第116回例会、9月の中国ジェンダー研究会第46回例会などで報告し、多くの専門家から助言を得ることができた。現在は「清末の女子教育をめぐる在日中国人のネットワーク——孫清如と『女子師範講義』の編訳から見る」と題する論文を執筆しており、査読中であり年内刊行を予定している。

研究遂行にあたっては、自ら積極的に資料所蔵館と連絡を取り、現地調査を繰り返し行った。天津図書館では当初、書類不足により閲覧を拒否されたが、直ちに指導教員や大学の支援を得て必要な手続きを整え、再訪によって資料を入手した。この経験は、困難に直面しても諦めず行動を続ける姿勢を示すとともに、事前準備の重要性を改めて認識させた。さらに、英語での国際学会発表にも挑戦し、国内外の研究者と積極的に交流を図ることで、学術的ネットワークを広げることができた。この一年の研究を通じて、中国史が男性中心に記録され、女性の存在がしばしば欠落してきた現実を再確認した。孫清如をはじめとする最初期の女子留学生が残した資料を通じ、女性自身の言葉で歴史を再構築することの意義を強く実感している。今後もこの視点を深化させ、中国女性史研究に寄与していきたい。

11. 成果物

- 1) 学術発表：2024年12月7日の立命館大学・高麗大学主催・「東アジア次世代フォーラム in Kyoto」での発表、発表の様子・会場の様子・参加証明合計3枚＋発表資料（成果物ファイルを参照）。
- 2) 学術発表：2025年7月5日には、神奈川大学中国人留学生史研究会第116回例会での発表、発表の様子・参加者との写真合計2枚＋発表資料（成果物ファイルを参照）。
- 3) 学術発表：2025年9月9日には、中国ジェンダー研究会第46回例会での発表、懇親会の写真・研究会の前と後のメールのスクリーンショット合計3枚＋発表資料（成果物ファイルを参照）。
- 4) 学術論文：「清末の女子教育をめぐる在日中国人のネットワーク——孫清如と『女子師範講義』の編訳から見る」、『立命館東洋史学』48号、査読待ち、年内刊行予定。